グローバル時代に活躍するための多元的学士力向上プログラム

南山大学　●外国語学部英米学科

「読む・書く・聞く・話す」の先をめざす

あらゆる分野におけるグローバル化が進んだ今、もはや英語が単に、読める・書ける・話せる・聞けるというだけでは、国際化社会のリーダーとして活躍することは難しい。南山大学外国語学部英米学科では、1、2年次で徹底的に基礎英語力を鍛え、3、4年次では多様な専門分野に関する英語での思考、発表、討論ができる能力を育成するカリキュラムが組まれている。

この南山の英語教育力をさらに発展させるべく導入されたのが、文部科学省の「大学教育推進プログラム」にも採択された【多文化社会における英語による発信力育成～グローバル時代に活躍するための多元的学士力向上プログラム～】だ。企画運営力の育成、英語による情報発信力の育成、異文化理解力の育成という3本柱を基本に、「読む・書く・聞く・話す」の先をめざす。通常は大学院レベルでの目標であるが、南山大学（英米学科）では、学部レベルでそれをめざすという意欲的かつ挑戦的な取組である。

国際ワークショップなどの企画運営も学生が英語で

このプログラムの核として設定されているのが、国際ワークショップ、国際シンポジウム、卒業論文の3つ。国際ワークショップは毎年、春と秋の2回、米国のディキンソン大学やハワイ大学など、提携校を中心に教授や学生十数人を招いて、それぞれの研究に関する発表と質疑応答、討論を展開する。これまでのテーマは、グローバル化が進む中での移民問題から、オバマ政権発足後の日米関係など多彩。一般にも公開され、他大学の研究者や学生、高校生など、多い時には200人近くが参加し、聴講する。国際シンポジウムは、南山の学生が海外の提携大学を訪れて、合同で開催する。

注目すべきは、国際ワークショップであれ、国際シンポジウムであれ、その企画や運営を学生自身が運営委員となって担う点だ。海外提携先大学との打ち合わせが英語なのはもちろん、南山大学内でのミーティングなどもすべて英語。広報のためのホームページ作成やポスター作り、日程や内容の細かな調整も英語で打ち合わせるなど、学生が高い英語力を発揮する。

中間発表会などを経て卒業論文を世界に向け発信

卒業論文は学士力養成の集大成だが、南山のこのプログラムでは英語で書くだけでなく、まず、中間発表会というものが設定されている。これは、卒論制作の単位となるゼミの枠組みを超え、自分の卒論内容を他の専門分野の学生にも理解できるよう英語で発表し、英語の質問に答えるもの。丁寧な説明能力が問われ、鍛えられると同時に、他分野の学生目線で、論文内容や表現がチェックされることになる。

こうして作成した卒論をインターネット上に公開し、世界の学生や研究者に閲覧してもらうことで情報発信力も向上させる。ゼミの指導教員から論述内容の指導を受けると同時に、ネイティブ・スピーカーである教員から、英語論文特有の表記法や言語表現の指導を受け、世界に発信するに値するレベルの論文に仕上げるのだ。

学生は、こうしたワークショップへの参加や卒論中間発表会などを通して、習得した英語力を生かして自分の専門外の分野にも関心を持ち、さらに日本とは何か、日本人とは何かということにも考えを深めていく。

●本プログラムについて、学生によるコラムを配信中！　http://eibei-gp.nanzan-u.ac.jp/column.html

Data & Information

南山大学

<名古屋キャンパス>
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
TEL 052-832-3013（入試課）
http://www.nanzan-u.ac.jp/
<瀬戸キャンパス>
〒489-0864 愛知県瀬戸市せいれい町27

■学部
●人文学部 ●外国語学部 ●経済学部
●経営学部 ●法学部 ●総合政策学部
●情報理工学部
●短期大学部（2011年4月、南山短期大学より名称変更）

■交通
<名古屋キャンパス>
□地下鉄名城線「名古屋大学」、あるいは「八事日赤」駅より徒歩約8分。
□地下鉄鶴舞線「いりなか」駅下車、徒歩約15分
<瀬戸キャンパス>
□地下鉄東山線「本郷」駅よりスクールバスで約30分。
□地下鉄鶴舞線「平針」駅よりスクールバスで約40分。
□リニモ（東部丘陵線）「愛・地球博記念公園」駅よりスクールバスで約10分。
□愛知環状鉄道「山口」駅下車、徒歩約10分

●2010オープンキャンパス
7/18(日)　●9:30～16:00
［主な内容］模擬授業・学科説明会（事前申し込み制）。相談コーナー、キャンパスツアー、クラブ活動紹介、南山大学入試徹底分析（自由参加制）　など
※名古屋キャンパス・瀬戸キャンパスで同時開催。両キャンパスを往復する無料シャトルバスも運行します。
●1日体験入学会
10/11（月・祝）
●保護者のためのオープンキャンパス
2011/3/19（土）

●学びを深め、実践力を養う様々なプログラム

国際社会で活躍するキャリアを考える特別プログラム

外務省から招聘した客員教授を中心に、現役の外務省職員やJICA職員などを講師に招いて、国際公務員や外務公務員をめざす学生や大学院生向けの講演を行う特別プログラムを実施している。国際交流・支援活動の現場や、外務公務の実態を熟知する講師陣の話は、将来に向けての学生の意欲をいっそう高めると同時に、希望実現に向けての貴重な知識も得られる機会となっている。

「国際社会で活躍するキャリアを考える特別プログラム」で講演したJICA職員の記事は、南山大学Webページ「受験生の皆様」内の、「先輩の履歴書」ページで読む事ができるのでぜひアクセスを！

アメリカ国務省研修プログラムに南山大生（英米学科生）が参加

アメリカ国務省の教育文化局では、アメリカの外交政策に関心を持つ日本、中国、韓国の大学生を対象に、アメリカの大学などで学ぶ研修プログラムを実施しており、日本からの参加学生として、南山大学英米学科の学生も選ばれた。研修は、アメリカの大学で寮生活を送りながら4週間のセミナーに参加して、ディスカッションやグループプレゼンテーションなどを通してアメリカの外交政策についての理解を深め、その後、1週間のアメリカ国内旅行で政治の中心地・ワシントンDCも訪問するほか、市民らとの交流やボランティア活動にも取り組む。往復旅費や生活費など、すべてをアメリカ政府の公費負担で、選ばれる学生は3カ国合わせて20名、日本からは7名という狭き門だ。